FD　8月23日（火）13：00～15：00／アクティブ・ラーニングスペース2

グラフィック・シラバスの作成方法

■講師

佐藤 浩章
（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室　副室長・准教授）

北海道大学大学院教育学研究科博士課程単位取得満期退学。2002年度から、愛媛大学で授業改善・カリキュラム開発・組織開発の方法、学生の学習・生活の支援に取り組む。この間、米国ポートランド州立大学客員研究員、名古屋大学客員准教授、北海道大学客員准教授、筑波大学客員研究員、国立教育政策研究所客員研究員、キングスカレッジロンドン客員研究フェローを兼任。

■プログラム概要

シラバスは、学習目標やスケジュールが書かれた、授業に関する最大重要文書と言えます。ところが、教員が期待するほどには、学生は注意深くシラバスを読んでいないのも事実です。たとえ、学生が読んだとしても、教員が持つ背景的知識を踏まえてシラバスの内容を理解することは困難です。

グラフィック・シラバスとは、学習内容をフローチャート、ダイアグラム、樹形図として一枚のマップに表現したものです。学生はこれを読むことによって、学習目標や内容を効果的に理解できるだけでなく、容易に記憶にとどめることができます。また教員は、これを通して、自らの授業内容を精選し、よりスムースな流れで再構成を行うことができます。

本ワークショップでは、カナダ・マギル大学におけるワークショップで、グラフィック・シラバスを作成した講師の経験をもとに、その意義や特徴を説明します。その上で、参加者全員が自らの授業についてグラフィック・シラバスを書き上げることを目指します。

参加者はシラバスを持参してください。

■本プログラムの到達目標

1. テキスト・シラバスの限界を説明できる。
2. グラフィック・シラバスの特徴を説明できる。
3. グラフィック・シラバスの作成手順を説明できる。
4. 自らの授業についてグラフィック・シラバスを書き上げる。

FD・SD共通　　8月23日（火）13：00～15：00／M23教室

ディプロマポリシー・カリキュラムポリシー・アドミッションポリシーの開発と一貫性構築の進め方

■講師

小林　直人
（愛媛大学　教育・学生支援機構　教育企画室長、
　愛媛大学　医学部　総合医学教育センター長・教授）

昭和 63 年３月東京大学医学部医学科卒、博士（医学）。平成 21 年度より愛媛大学教育・学生支援機構副機構長と教育企画室長を兼任。教育担当理事（教育・学生支援機構長）のもと、大学全体のFDをミクロ・レベルからマクロ・レベルまで幅広く担当。

■プログラム概要

平成 20 年3月に出された『学士課程教育の構築に向けて』（中央教育審議会）では、国際通用性を備えた学士課程教育の構築のために「明確な『三つの方針』に貫かれた教学経営」を求めています。つまり、大学の個性や特徴は「各機関の学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針」（ディプロマ・ポリシー：DP、カリキュラム・ポリシー：CP、アドミッション・ポリシー：AP）に反映されるものとし、この三つの方針の共通理解のもとに教職員が日常の実践に携わり、PDCAサイクルを確立することが重要だとしています。また、大学の様々な外部評価の際にも、同様の方針の策定と公表が求められています。

このプログラムでは、DP・CP・APの策定と一貫性構築を進めて行く業務の実際、DPを利用したカリキュラム・アセスメントの実例、想定される問題点、成果を上げるコツなどを、愛媛大学の経験をもとに、シミュレーション・ワークショップ形式で実施します。

■本プログラムの到達目標

1. DP・CP・APの策定とそれらの間の一貫性構築を進めることの重要性について、政策面を含めて自身が所属する機関の教職員に説明することができる。
2. DP・CP・APの策定とそれらの一貫性構築の進めかたについて、愛媛大学の良い点と改善すべき点を指摘することができる。
3. 自身が所属する大学等で取り組むべき内容とすぐにできる取組を上げることができる。

SD　8月23日（火）13：00～17：30／M24教室

職場内での職員の能力開発手法①②

■講師

秦　敬治
（愛媛大学 教育・学生支援機構教育企画室 副室長・准教授）

西南学院大学商学部経営学科卒業。九州大学大学院人間環境学研究科発達・社会システム専攻修士課程修了。同専攻博士課程単位修得満期退学（教育学博士）。学校法人西南学院本部・大学経理課係長（主査）、愛媛大学経営情報分析室助教授を経て現職。

■プログラム概要

職場でのOJTが重要であることは、大学においても言えることです。しかし、効果的な人材育成が行えるOJTの手法を大学内で有しているケースは稀ではないでしょうか。

本プログラムの前半部分は、職場内での職員の能力育成の手法の一つとして、選択理論を学習します。選択理論に関する知識を修得し、事例からその効果を学びます。

後半部分では、選択理論に基づく職場内での職員の能力開発を実践することで、スキルを修得します。ペアワーク、グループワークの中で選択理論を繰り返し使うこと、フィードバックを受けることで、スキルを自らのものへと落とし込んでいきます。

現在、役職に就かれている方、若手のリーダー、今後、そのような立場に就こうと思っておられる方など、多くの職員の方の受講をお待ちいたしております。

■本プログラムの到達目標

1. 選択理論の特徴を説明することができる。
2. 選択理論を使った判断を行うことができる。
3. 選択理論を使った能力開発を実践することができる。

FD　8月23日（火）15：30～17：30／アクティブ・ラーニングスペース2

学習評価の基本

■講師

城間　祥子
（愛媛大学　教育・学生支援機構　教育企画室　助教）

筑波大学第二学群人間学類卒業。
同大学院人間総合科学研究科心理学専攻単位取得退学。
2007 年度から愛媛大学に勤務。
修士（心理学）。専門は教育心理学。

■プログラム概要

皆さんはどのような方法で、学生の学習を評価していますか。本プログラムでは、学習評価の基本的基礎知識である、学習評価の原則、学習評価の公平性、テストの作成法、学習評価の厳密化と効率化のためのツールといった内容について学びます。自分の学習評価方法を見直し、公平性・厳密性と効率性の両方を満たすものにするためのヒントを持ち帰ることができます。

■本プログラムの到達目標

1．学習評価の原則を説明することができる。
2．形成的評価と総括的評価の違いと重要性を説明できる。
3．多様な学習評価方法を知り、自らの授業で活用できる。

SD　8月23日（水）15：30～17：30／M23教室

一人ひとりが広報パーソン

■講師

河野 太志
（愛媛大学広報室 副室長（危機管理室 副室長 兼務））

1996年母校である愛媛大学に入職。文部科学省勤務を経て、愛媛大学に戻った後は、教育企画課で教職員の能力開発（FD/SD）や四国地区におけるネットワーク形成、経営企画課で大学の目標計画の策定・評価等に携わる。

■プログラム概要

情報公開が当たり前となった今、大学全入時代を迎え、それぞれの大学が独自性を打ち出し、それを学内外へいかに伝えるか、国公私立を問わず大学広報が注目されています。大学における広報戦略は大学の経営そのものを左右するとまで言われる中、大学はどのような情報を発信すべきなのか、愛媛大学の広報の取組を紹介しながら、大学広報の弱点や、攻めの広報(戦略的広報)、守りの広報（危機管理広報）を考えます。

このプログラムにより、一人ひとりが大学を背負う広報パーソンとしての自覚をもつともに、広報パーソンとして重要な人的ネットワークを築くきっかけとなることを期待しています。

■本プログラムの到達目標

1. 広報戦略の必要性を説明することができる。
2. 危機管理広報の重要性を説明することができる。
3. 広報パーソンとして常に心掛けることを二つ以上書くことができる。

FD　8月24日（水）10：00～12：00／アクティブ・ラーニングスペース2

大人数講義法の基本（遠隔配信プログラム）

■講師

小林　直人
（愛媛大学　教育・学生支援機構　教育企画室長、
　愛媛大学　医学部　総合医学教育センター長・教授）

昭和 63 年3月東京大学医学部医学科卒、博士（医学）。平成 21 年度より愛媛大学教育・学生支援機構副機構長と教育企画室長を兼任。教育担当理事（教育・学生支援機構長）のもと、大学全体のFDをミクロ・レベルからマクロ・レベルまで幅広く担当。

■プログラム概要

「よい」講義とはここでは、聞き手の学生にとって分かりやすく、知的な緊張感があり、さらに学生が参加する（した気にさせる）講義、ということにします。学生とコミュニケーションを取る方法、講義に参加させる方法や授業効果を高める方法など、大人数の学生を聴衆とした「よい」講義をするために気をつけておかなければならない様々な授業スキルを、実例や実習を通して習得することができます。

また参加体験型授業/アクティブ・ラーニング型授業の一例として、受講者に実際にグループワークを体験していただきます。講義を受け持つようになって間もない教員の方はもちろん、自分の講義を振り返りたいと思われている方、また職員の方々も是非受講してください。

本プログラムは愛媛大学会場と各参加校を遠隔通信で結んで実施しますが、対面型の講習とほぼ同じ内容を扱い、参加校毎のグループワークも取り入れます。遠隔通信型の授業を開講してみたい、体験してみたい、という方も歓迎いたします。

■本プログラムの到達目標

1. 学生にとってよい授業とはどのようなものかを具体的に説明できる。
2. 様々な授業スキルを実際の体験を通して習得し、自分の授業に生かすことができる。

※本研修プログラムは、SPOD 加盟校向けの遠隔配信プログラムであり、

愛媛大学会場では受講できません。ご了承ください。

FD・SD共通　8月24日（水）10：00～17：30／M23教室

教員主導・学生主体の授業の進め方①～③

■講師

中村 文子
（ダイナミックヒューマンキャピタル株式会社　代表取締役）

有名外資系企業で人材育成に従事、2005年より現職。トレーナー養成では世界的権威であるボブ・パイク氏の提唱する「参加者主体のトレーニング手法」を用いた「トレーナー養成ワークショップ」を日本で展開している。ビジネスコミュニケーションスキル、ホスピタリティ関連の研修やコンサルティングを行っている。早稲田大学エクステンションセンター、日経ビジネススクール、日本能率協会にて講師実績あり。

■プログラム概要

企業が研修に投資することの意義は、社員が研修で学んだことを職場で実践し、ビジネスにおいて成果を出すことです。職場で実践するためには、研修で学んだ内容が記憶に定着していること、そして実践しようというモチベーションを持っていることが必要です。その二つを促進するための研修デザインと、クラス運営の手法を体系化したものが「参加者主体」の手法です。本プログラムでは、その一部をご体験いただき、授業への活用や応用方法を見出していいただくことを目的としています。デザインや学習のプロセスは教員・講師に主導権がありますが、その学習のプロセスにいかに学生の主体性を引き出すかがカギです。「先生の話を学生が聞く」一方的な講義スタイルから脱却し、学生が自主的に授業に参加するような運営方法を検討し、実践していただくアイデアを見出していいただきます。

■本プログラムの到達目標

「参加者主体」の手法を体験し、

1. 学習効果が高まる学習方法の理論を理解する。
2. 効果的なオープニングとクロージング方法の実践案を見出す。
3. 学生の授業への自主的な参画を促進する手法を検討し、実践案を見出す。

FD　8月24日（水）10：00～12：00／M24教室

授業アンケートと公開授業の効果的な活用方法

■講師

佐藤 浩章
（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室　副室長・准教授）

北海道大学大学院教育学研究科博士課程単位取得満期退学。2002年度から、愛媛大学で授業改善・カリキュラム開発・組織開発の方法、学生の学習・生活の支援に取り組む。この間、米国ポートランド州立大学客員研究員、名古屋大学客員准教授、北海道大学客員准教授、筑波大学客員研究員、国立教育政策研究所客員研究員、キングスカレッジロンドン客員研究フェローを兼任。

■プログラム概要

公開授業と授業アンケートは、日本において最も一般的な授業改善の一つだと言えます。一方で、形式的な実施に陥っている（マンネリ化）という声も聞きます。「やりっぱなし」にせず、効果的にそれらを実施するためには、どうしたらよいのでしょうか。またその結果をどのように活用したらよいのでしょうか。本プログラムでは、国内外の様々な事例を紹介しながら、下記のようなトピックに触れながら上記の問いを考えていきます。

・私が公開授業を推奨しない理由
・行動変容につながる公開授業と授業検討会の鉄則
・たかが授業アンケート、されど授業アンケート
・やりっ放しにならない授業アンケートの活用術

参加者は、自らの職場において公開授業や授業アンケートを見直すヒントを持ち帰ることができます。ご自身の職場の現状についてグループで話し合う時間をとりますので、事前に情報収集をお願いいたします。実際に使用されている授業アンケート用紙がお手元にあれば、より効果的に学ぶことができます。

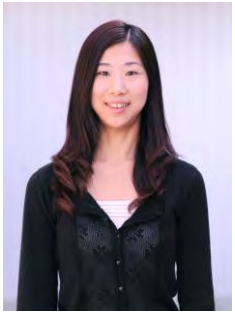
■本プログラムの到達目標

1. 効果的な公開授業と授業検討会の進め方を説明できる。
2. 授業アンケートの特性を説明できる。
3. 授業アンケートの効果的な活用方法を説明できる。
4. 自らの職場の公開授業と授業アンケートを改善するヒントを持ち帰る。

FD・SD共通　8月24日（水）10：00～12：00／M32教室

研究室教育を活性化させるコツ

■講師



左から

城間　祥子（愛媛大学　教育・学生支援機構 教育企画室　助教）
筑波大学第二学群人間学類卒業。同大学院人間総合科学研究科心理学専攻単位取得退学。2007 年度から愛媛大学に勤務。修士（心理学）。専門は教育心理学。

大竹　奈津子（愛媛大学　教育・学生支援機構　教育企画室　特任助教）
愛媛大学農学部生物資源学科卒業。愛媛大学連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程満期退学。専門は水文学。

谷中　恭伸（愛媛大学 教育学生支援部 教育支援課 学部・大学院統括チームリーダー）
弓削商船高等専門学校職員を経て現職。

山内　一祥（佐賀大学　高等教育開発センター　ポートフォリオ開発部門　特任助教）
岡山理科大学理学部化学科卒業。愛媛大学教育学研究科理科教育専修修了。愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室を経て、2011 年より現職。専門は高等教育論，キャリア教育，能力開発。

■プログラム概要

現在の大学研究室では、「学生同士の仲が悪くて困っている」、「ゼミ開始時刻になっても学生が現れない」や「先輩が後輩の面倒を見ない」など、研究室コミュニティーが機能しなくなっているという問題を抱えているケースがみられます。

本プログラムでは、参加者のみなさんに研究室教育のヒントを持ち帰っていただくため、現在の研究室の状況、研究室教育に関する問題点の共有をグループワークを通して行います。また、これらを解決するために、教員がどのような関わり方をすれば先輩学生が後輩学生を指導する関係をつくれるのか、本学のオリジナル教材である「後輩指導ハンドブック」をもとに提案します。

■本プログラムの到達目標

1．自身の研究室の改善策を提案することができる。
2．先輩後輩の関係づくりのコツを述べることができる。

FD・SD共通　8月24日（水）10：00～12：00／M33教室

ニーズに合わせた初任者研修作成講座

■講師

宮田　政徳
（徳島大学　大学開放実践センター　准教授）

熊本大学教育学部卒業。広島大学文学研究科博士課程後期満期退学。専門は英語学。

吉田　博
（徳島大学　大学開放実践センター　助教）

愛媛大学理学部数理科学科卒業。同大学院理工学研究科数理科学専攻博士前期課程修了。専門は数学。

■プログラム概要

現在、全国の大学、短大、高専などの高等教育機関では、それぞれの教育理念や運営体制、学生のニーズなどに合わせて様々なタイプの初任者研修が実施されています。四国の高等教育機関においても、SPODのネットワークを活かして、各県のコア校が中心となり、加盟校の新任教員を対象とした初任者研修が実施されています。このプログラムでは、皆さんの所属する機関に適した初任者研修の計画を行います。自校の初任者教員が抱える課題や必要な支援などを整理し、ニーズの把握を行い、四国で実施された初任者研修や、新任教員研修の基準枠組みを参考にしながら、初任者研修プログラムを作成します。自校において、初任者研修の企画を考えられている方、また今後このような研修の企画をする予定の方の参加をお待ちしております。

■本プログラムの到達目標

1. 初任者研修を計画するためのニーズを把握することができる。
2. 初任者のニーズに合った支援方法を見つけることができる。
3. 初任者のニーズに合った研修の目的・目標を設定することができる。
4. 初任者研修の目的・目標に沿ったプログラムを計画することができる。

FD　**8月24日（水）10：00～17：30／校友会館2Fサロン**

ティーチング・ポートフォリオ更新ワークショップ①～③

■講師

栗田　佳代子
（大学評価・学位授与機構　研究開発部　准教授）

東京大学教育学部教育心理学科卒業。同大学院教育学研究科教育心理学専攻修士課程修了。同大学院教育学研究科総合教育科学専攻博士課程単位取得退学。博士(教育学,東京大学)取得。日本学術振興会特別研究員，カーネギーメロン大学 Visiting Scholar，大学評価・学位授与機構評価研究部助手，同助教，同准教授を経て現職。

■プログラム概要

お手元にあるティーチング・ポートフォリオは現在第何版でしょうか？ポートフォリオに完成版はありません。更新を続けてゆくべきものだからです。

–更新の意義は次のように考えられます。

・短期目標を設定→実行→確認→再設定という改善のサイクルをつくる
・自分の持つ理念を確認し，方法，成果，目標に至るまでの一貫性を意識することで教育へのモチベーションを保つ
・教育に関する業績を包括的に管理できる

しかしながら，更新の意義は十分理解できていても，実際には一人では更新は難しいのも事実です。

本ワークショップは，「更新したいけども，なかなか一人では更新しない／できない」人のための企画です。更新は，時間をきちんとつくることで確実に達成できます。さらに本ワークショップは更新だけでなくメンターとしてのスキルを磨くプログラムも組み込まれています。仲間と楽しく更新しましょう。

参加される方はご自身のティーチング・ポートフォリオと作業用ノート PC の持参と事前課題の提出をお願いします。

■本プログラムの到達目標

1．ティーチング・ポートフォリオを更新する。
2．メンターとしてのスキルを向上させる

FD　8月24日（水）13：00～17：30／アクティブ・ラーニングスペース2

職場で使えるグループワーク～効果的な実践手法～

■講師（SPOD 次世代リーダー養成研修第1期生）

（上段　左から）

高知大学　財務部財務課	係長	安岡　隆一
高知大学　医学部　病院事務部医事課医事係	主任	貞弘　展広
香川大学　経営管理室給与福利グループ	チーフ	海老野　薫
香川大学　医学部患者サービス課	主任	石原　卓也

（下段　左から）

聖カタリナ大学　学生支援課	課長	宮田　和美
聖カタリナ大学　図書課	課長補佐	玉岡　兼治
愛媛大学　総務部学長秘書室	チームリーダー	織田　隆司
愛媛大学　総務部広報室	副室長	河野　太志

■本プログラム実施の趣旨（SPOD 事務局）

このプログラムは，SPOD 次世代リーダー養成研修を受講している第1期生（平成22～23年度受講）が担当します。SPOD－SD は「持続」するために，自前の講師を養成することを目標としており，今回は第1期生が研修で得たスキルを初めて講師として実践する場です。

このため，受講対象を若手職員（係員クラス）とさせていただいています。

■プログラム概要

最近、若手事務職員にもさまざまな場面で意見を求められる機会が増えています。

私たちは、SPODの次世代リーダー養成研修受講生として、各種の課題やワークを実践する中で、そんな場面に役立つ手法の一つを学びました。

それは、グループで多くのキーワードを出し合い、まとめ、図式化する手法です。

このプログラムでは、『リーダーに求められる素養』をテーマとして取り上げ、この手法を用いたグループワークを行います。

プログラムの最後には、グループワークを通しできあがったものを発表して頂きます。

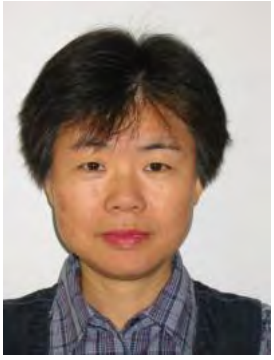
■本プログラムの到達目標

1. キーワードを出し合い、それらをまとめる手法を説明することができる。
2. まとめたものを図式化することができる。
3. 図を用い、分かりやすく説明することができる。
4. 一連の手法を持ち帰ることにより、職場での日常業務の中に活かすことができる。

SD　8月24日（水）13：00～17：30／M24教室

スタッフ・ポートフォリオの作成方法①②

■講師



（左から順に）
大竹　奈津子 （愛媛大学　教育・学生支援機構　教育企画室　特任助教）
愛媛大学農学部生物資源学科卒業。
同大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程満期退学。
専門は水文学。

秋谷　恵子 （愛媛大学　総務部人事課　副課長）

塩出　和久 （愛媛大学 総務部人事課　人材育成チームリーダー）

■プログラム概要

スタッフ・ポートフォリオとは、職員自らがキャリア形成を図れ、組織としてはこれにより職員一人ひとりの可能性や潜在能力を知ることができるツールのことです。本プログラムでは、スタッフ・ポートフォリオの詳しい定義やその有益性を説明した後に、SPOD－SDでの活用例及び愛媛大学での導入例や実際にスタッフ・ポートフォリオを作成した職員の声を聞き、実践例を示します。

スタッフ・ポートフォリオは大学や大学職員人事マネジメントにどのような影響や効果を与えるのでしょうか。また、職員個人にどのような影響や効果があるでしょうか。さらには、スタッフ・ポートフォリオは簡単に作成することができるのでしょうか。作成する場合に重要なこととは何でしょうか。

このような疑問を一つずつ解決できるようなプログラムとなっています。

■本プログラムの到達目標

1. スタッフ・ポートフォリオとは何かを説明することができる。
2. スタッフ・ポートフォリオの有益性を人事マネジメントの面から説明することができる。
3. スタッフ・ポートフォリオの有益性を職員個人の面から説明することができる。
4. スタッフ・ポートフォリオ作成の際に重要になるポイントを説明することができる。

SD　8月24日（水）13：00～15：00／M32教室

明るい職場づくり
ー職場のコンプライアンスとハラスメントー

■講師

高木　健一郎
（香川大学　理事（労務担当））

昭和46年4月四国電力株式会社入社
本店人事・労務管理部門に属して、人事評価制度、労使関係、業務合理化・効率化計画社員研修などの業務に従事。
平成16年4月国立大学の法人化に伴い、労務担当理事に就き、人事・労務全般、法務などを担当。現在に至る。

■プログラム概要

明るい職場とは、コンプライアンスの意識が高く、労働関係法規はもとより、その他法令や社会規範が遵守され、職員が身体や生命の健康を害されることなく、あるいは、その人格的利益を侵害されることのない働き易い職場のことです。

しかし現在、不祥事が発生されるたびに、コンプライアンスの意義が強調され、未だ職員間の認識が徹底されているとは言い難い状況にあります。

また、最近では、職員の不正行為が明るみに出るのは、往々にして他の職員の内部告発によるものも多く、公益通報者保護法の成立に伴い、更に、この流れが強まるものと予想されます。

本プログラムでは、大学において法務とコンプライアンスの実務を担当し、現場での実践・経験を行なってきた講師が、教訓とすべきハラスメント事例を紹介して、各職場における対策について学ぶものです。

■本プログラムの到達目標

1．危機管理とコンプライアンスの重要性について述べることができる
2．セクシュアルハラスメントに関する基本的知識について述べることができる
（1）雇用関係におけるセクシュアルハラスメント
（2）セクシュアルハラスメントの具体的対応
（3）セクシュアルハラスメントに関する裁判

FD　8月24日（水）13：00～15：00／M33教室

教養教育の授業デザイン講座

■講師

斉藤　隆仁
（徳島大学　ソシオアーツアンドサイエンス研究部　准教授）

東京理科大学理学部卒業。東京都立大学理学研究科博士課程中退。専門は物理学。

吉田　博
（徳島大学　大学開放実践センター　助教）

愛媛大学理学部数理科学科卒業。同大学院理工学研究科数理科学専攻博士前期課程修了。専門は数学。

■プログラム概要

皆さんは、教養教育の授業を担当することになった時にどのような授業を考えるでしょうか？現在、我が国では教養教育が見直され、教養教育の授業を重視する大学も増えてきました。このプログラムでは、皆さんの大学、学部、学科のカリキュラムの中で自身が学生に伝えたいことを盛り込んだ教養教育授業を設計します。はじめに「教養」とは何かについて、参加者同士で意見交換をしながら、皆さんの考える「教養」を明確にします。次に、自身の伝えたいことや社会・大学・学部・学科などの背景を整理して、本当に伝えたい、伝えなければいけないテーマを抽出し、授業デザインに取りかかります。自身の教養教育の授業を考え直してみたい方、新しい教養教育の授業を模索中の方など、「教養の授業」について考えてみたい方の参加をお待ちしております。

■本プログラムの到達目標

1. 自身の考える「教養」について説明することができる。
2. 自校における教養教育のニーズを考えることができる。
3. ニーズに合った教養教育授業の目的・目標を設計することができる。

FD　8月24日（水）15：30～17：30／M32教室

小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザイン
ー考え方と進め方ー

■講師

俣野 秀典
（高知大学 総合教育センター 大学教育創造部門 講師）

北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科修了。地域科学研究会・高等教育情報センター研究員を経て、2009 年より現職。成績評価をはじめとした教育評価を中心に、FD を含めた“Educational Development”に取り組む。2010 年からは教育プログラム開発部会長として、課題探求型授業の開発・支援に携わる。

■プログラム概要

“学びのプロセスに学生自身がどれだけ関わることができたか”が学習成果を左右すると言われています。ここ数年、学生参加型や双方向型授業といった名称の授業が増えてきていることの大きな理由がここにあります。

そこで本プログラムは、授業の活動性を高めるために、講義の一部にグループ学習やペア学習を取り入れてみたいと考えている教員を主な対象として、そのための考え方や方法を参加メンバーと共に学び、理解することを目的として実施されます。

■本プログラムの到達目標

1. グループでの活動による学習の効果を説明できる。
2. 協同的な学習活動を生産的なものにするための条件（要素）について二つ以上説明できる。
3. 学生を参加させるための技法を目的に応じて選択できる。

FD・SD共通　8月24日（水）15：30～17：30／M33教室

はじめてのラーニング・ポーフォリオ

■講師

山内　一祥
（佐賀大学　高等教育開発センター　特任助教）

岡山理科大学理学部化学科卒業。愛媛大学大学院教育学研究科修了。愛媛大学　教育・学生支援機構教育企画室特任助教を経て、現職。

■プログラム概要

本プログラムでは、大学4年間を通したラーニング・ポートフォリオについて、佐賀大学の事例を通して紹介します。ポートフォリオとは、「自らの学習活動について振り返り、自らの言葉でしるし、様々な根拠資料によってこれらの記述を裏付けた学習実践について厳選された記録」のことです。つまり、大学生活を通して経験する授業、日常生活などすべてのことから何を学んだのかということを、根拠資料とともに自らの言葉で記録し、振り返るためのツールです。

本プログラムでは、ラーニング・ポートフォリオを有効なツールとして機能させるために必要な要素について概説します。そして、自大学で導入するにあたって何が必要かを考えます。

■本プログラムの到達目標

1. ラーニング・ポートフォリオとは何かを説明することができる。
2. ラーニング・ポートフォリオに必要な要素について説明することができる。
3. ラーニング・ポートフォリオを自大学で導入するために必要なことを説明することができる。

FD　8月25日（木）10：00～12：00／アクティブ・ラーニングスペース2

臨床現場における実習評価と学生へのフィードバック

■オーガナイザー

オーガナイザーとして
小林　直人
（愛媛大学　教育・学生支援機構　教育企画室長、
　愛媛大学　医学部　総合医学教育センター長・教授）　が担当

昭和 63 年3月東京大学医学部医学科卒、博士（医学）。平成 21 年度より愛媛大学教育・学生支援機構副機構長と教育企画室長を兼任。教育担当理事（教育・学生支援機構長）のもと、大学全体のFDをミクロ・レベルからマクロ・レベルまで幅広く担当。

■プログラム概要

医療・福祉系学部では、高学年次に必ず患者のベッドサイドでの実習が行われますが、座学の授業とは異なり臨床現場での実習の成績評価は容易ではありません。

本プログラムでは、SPOD加盟の医療・福祉系大学・学部から参加者を募り、実習の評価を具体的にどう行ったらよいか、また評価結果を実際に学生にどのようにフィードバックしたらよいか、評価の客観性や透明性をどう確保するかについて含めて議論します。また後半では、先行事例の大学の協力のもとに、実際にグループで実習評価（主に形成的評価を扱います）用のルーブリックやチェックリストを作成し、各大学へ持ち帰ってカスタマイズできるようにします。

実際に実習の指導にあたっている教員の方々はもちろん、実習のカリキュラムの構築に当たっている教職員の方々、臨床現場の医療職の方々の参加も歓迎します。四国の知恵を結集しましょう！

■本プログラムの到達目標

1. 医療・福祉系の学部教育における実習の意義と問題点を列挙できる。
2. ベッドサイドでの実習の成績を評価するための項目を列挙できる。
3. 形成的評価のためのルーブリックやチェックリストを試作することができる。
4. 自身が所属する機関において、学生実習の形成的評価を行うことができる。

FD・SD共通　8月25日（木）10：00～15：00／M23教室

プレゼンテーションの極意
ー聴き手を魅了する秘訣とは？ー①②

■講師

田中 省三
（愛媛大学　教育・学生支援機構　客員准教授）

龍谷大学非常勤講師（プレゼンテーション演習を担当）を経て、プレゼンテーション&教え方の極意・事務局を設立、代表に就任し、全国各地で研修・講演を行う。東海大学チャレンジセンター准教授を経て、現職。全国各地の大学・各種団体・企業などで、自己PRのノウハウやプレゼンテーション・スキル、教員向けの教え方の極意などを伝授。

■プログラム概要

プレゼンテーションや授業においては、「構成」は設計図のようなもので、一番の基本となるものです。また、自分が伝えたいことがあっても、「話し方・伝え方」が良くないと、聴き手のハートに響きません。

本プログラムは、前半と後半の二部構成ですが、必ず連続して受講して下さい。

① 前半では、プレゼンや授業全体をどのようにデザインするかというスキル・タイトル作成の秘訣などを扱います。

② 後半では、声の使い方のポイント・ボディーランゲージなどのコツなどを、具体例を示しながら解説します。

それらを身につけて頂くことで、聴き手を引き付けるプレゼンや授業ができるヒントが得られます。

ミニワーク、グループ・ワークの時間を何度も取りますので、**参加される方は、自分がプレゼンテーションや話し方などで何に困っているのかを明確にして、ノートなどに書き出してからご参加頂けると、このプログラムは一層効果的なものとなります。**

■本プログラムの到達目標

1. 聴き手が魅力を感じる「タイトル作成法」を習得できる。
2. 聴き手を魅了するプレゼンテーションの「構成法」を身につけることができる。
3. 聴き手を引きつける「話し方のコツ」（声の使い方・ボディーランゲージなどのポイント）をマスターできる。
4. 上記の1～3を、授業・会議での報告・講演などで活用できる。

FD・SD共通　8月25日（木）10：00～12：00／M24教室

学習成果をどう測定し、活用するか？

■講師

山田　剛史
（愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室 准教授）

神戸大学大学院総合人間科学研究科・博士後期課程修了。博士（学術）。京都大学高等教育研究開発推進センター教務補佐員，島根大学教育開発センター講師・准教授，実施部門長・副センター長を経て，2011 年 4 月より現職。専門は，青年心理学，高等教育論。

■プログラム概要

学習成果測定は，教育の質保証に関する国際的動向の中で喫緊の課題として注目されています（例えば，OECD の AHELO 等）。国内では中教審による「学士力」や日本学術会議による「分野別の教育課程編成上の参照基準」等が提起され，急速にアウトカムに基づく学士課程教育の体系化が求められています。しかし，国内外ともに学習成果の測定は概念の曖昧さも含めて充分に議論や実践が成熟しているとは言えない状況です。同時に，その測定方法も多様で，唯一の解は存在しません。そこで，自らの所属する機関の特性・文脈を踏まえつつ，学生調査などを始めとして様々な観点から学習成果の測定に関する多様な実践を蓄積し検証していく必要があります。

本プログラムでは，そうした学習成果測定をめぐる議論を概観し，いくつかの事例やワークを踏まえて，所属組織において望ましい学習成果測定の手段や活用方法について共に深めていきたいと思います。

■本プログラムの到達目標

1. 学習成果測定をめぐる動向について知り，理解することができる。
2. 学習成果測定に用いられる様々な方法の特徴について知り，理解することができる。
3. 教育改善に活かすためにデータを見る目を身に付けることができる。
4. 所属組織において学習成果測定の結果を有効活用するための方策についてデザインすることができる。

FD・SD共通　8月25日（木）10：00～12：00／M32教室

職場内能力開発の基本　－人を育てる組織づくり－

■講師

佐藤　浩章　（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室　副室長・准教授）
北海道大学大学院教育学研究科博士課程単位取得満期退学。2002　年度から、愛媛大学で授業改善・カリキュラム開発・組織開発の方法、学生の学習・生活の支援に取り組む。この間、米国ポートランド州立大学客員研究員、名古屋大学客員准教授、北海道大学客員准教授、筑波大学客員研究員、国立教育政策研究所客員研究員、キングスカレッジロンドン客員研究フェローを兼任。

米澤　愼二　（愛媛大学　教育学生支援部　次長）
愛媛県立川之石高等学校卒業後、国立大洲青年の家採用、国立特殊教育研究所、香川医科大学（現香川大学）、東京医科歯科大学、愛媛大学で勤務、主に人事系を中心に業務を行ってきたが、法人化後、広報室長、総務課長（この間危機管理室長兼務）を歴任し、人事課長を経て現職。SPOD－SD担当者として、スタッフ・ポートフォリオの開発及びSDプログラム開発を担当している。

■プログラム概要

FD、SDを担当する者にとって、職場内能力開発の基本的な知識が必要です。しかしながら、高等教育関係者がこうした基本的な内容を学ぶ機会は限られています。そもそも職場における能力開発は何のために行うのか。どのような類型があるのか。企画、実施、評価というサイクルをどのように回していけばよいのか。そして、機能的な能力開発組織をどう構築したらよいのか。こうした基本的内容を学び、改めて日々の実践を見直してみませんか。

本プログラムでは、機能的な能力開発組織（FD・SD担当部局）の事例や、組織的な能力開発体系の事例も学びながら、高等教育機関において、どのように組織的に能力開発を進めていけばよいのかを考えます。

こうした学習を通して、参加者は、自らの職場の能力開発を改善するヒントを持ち帰ることができます。

■本プログラムの到達目標

1. 職場における能力開発の意義について説明できる。
2. 職場における能力開発の3類型を説明できる。
3. 機能的な能力開発組織の事例を説明できる。
4. 組織的な能力開発体系の事例を説明できる。
5. 職場における能力開発の評価方法を説明できる。
6. 自らの職場の能力開発の改善のヒントを得る。

FD・SD 共通　8月25日（木）10：00～12：00／M33教室

事例から学ぶ危機管理
～東日本大震災の被災から授業開始まで～

■講師

阿部　光伸
（学校法人東北文化学園大学　学園事務局　部長）

東北大学大学院教育学研究科（前期課程）修了。専門学校での15年の教員生活を経て、平成15年から東北文化学園大学に勤務。学生課長、教務部長を経て現職。学生課長時代に修学支援制度「Student　JOB」を立上げたほか、今回の東日本大震災では、対策本部メンバーとして被災直後の学生支援、各種奨学制度の構築に関わる。

上甲　功治
（愛媛大学総務部総務課総務チームリーダー）

愛媛県立宇和島東高等学校卒業後、国立弓削商船高等専門学校採用、学生課、会計課で勤務、愛媛大学転任後は、主に人事系に勤務、平成20年から本部総務課において式典関係を主に、その他総務、危機管理業務を担当している。

石川　尚
（愛媛大学総務部総務課総務チームサブリーダー）

高知工業高専職員、(独)国立高等専門学校機構を経て、愛媛大学転任後は、教育学生支援部教育企画課教育企画チームを経て本年度から現職。

■プログラム概要

2011年3月11日（金）に発生した東日本大震災は，マグニチュード9.0，最大震度7を記録する観測史上最大級であり，甚大な被害をもたらしました。東北地方の各大学では，被災した学生・教職員・地域が一丸となり，授業を再開するなど復興に向けて努力を行っています。

本プログラムでは，仙台市にある東北文化学園大学が今回の震災に際して取った危機管理とその対応を学びます。そして、そこに当たって必要となる事業継続計画（BCP）作成のためのミニワークショップを行います。このプログラムが，危機管理の重要性を改めて考え，各大学が実践している危機管理方法を見直すきっかけになることを期待しています。

■本プログラムの到達目標

1．被災から授業開始までに大学等が優先的に取り組むべき業務を2つ以上説明できる。
2．事業継続計画（BCP）作成の重要性を2つ以上説明できる。
3．危機管理について，自大学で今後取り組まなければならない課題を提案できる。

大学院生・学生　8月25日（木）～26日（金）／校友会館2Fサロン

四国キャンパス元気プロジェクト
ー社会人基礎力が向上する研修プログラムをつくろうー

■司会（学生）

左から

浦邊研太郎
（徳島大学・工学部3年）

河野華子
（徳島大学・総合科学部2年）

■コーディネーター

西本　佳代　（香川大学 教育・学生支援機構 助教）
藤本　佳奈　（香川大学 教育・学生支援機構 助教）
吉田　博　（徳島大学 大学開放実践センター 助教）

■プログラム概要

本プロジェクトの目的は、学生自身が学生を成長させるための研修プログラムを作成することです。社会人基礎力や学士力、あるいはジェネリックスキル等、現在学生に求められる能力は広範多岐にわたります。もちろん、卒業までにこれらすべての能力を身につけられればよいのですが、従来の正課科目だけでは十分に対応しきれないのが現状です。

本プロジェクトでは、まず、それらの能力のうち、身につけたい能力をリストアップします。そして、それらの能力を育成するには、どのような研修プログラム（正課外）が必要になるのか考えます。これまで十分にサポートできていなかった社会人基礎力等の能力養成プログラムを学生自身が企画し、SPOD 加盟校をさらに元気にするための起動力になりたいと考えています。また、プログラム企画・立案の作業を通して、教職員が学生の成長をサポートすることも目的としています。

SPODフォーラム参加者の皆様は、四国キャンパス元気プロジェクトを見学することができます。SPOD加盟校の活気あふれる学生たちの活動を、ぜひ見学してください。

■本プログラムの到達目標

1. 自身が考えた研修プログラム案をプレゼンテーションすることができる。
2. 他者の研修プログラム案に対して、建設的なコメントをすることができる。
3. 実現可能な研修プログラムを作成ことができる。
4. プログラムを実現するために必要なことを説明することができる。

FD・SD共通　8月25日（木）10：00～12：00／共通教育講義12番教室

障がい学生支援入門

■講師

太田 琢磨（愛媛大学　バリアフリー推進室　室員）
東海大学大学院健康科学研究科保健福祉学専攻修了。Rochester Institute of Technology/ National Technical Institute for the Deaf Master of Science program in Secondary Education/大学院・研究生修了。2009 年 4 月より現職。

村上 沙耶佳（愛媛大学　バリアフリー推進室　室員）
愛媛大学教育学部障害児教育教員養成課程聴覚言語障害コース卒業。2009 年 4 月より現職。

高橋 信行（愛媛県立松山盲学校　教諭）
愛媛大学大学院理工学研究科博士課程後期課程在学中。特定非営利活動法人えひめ盲ろう者友の会理事長。東京大学先端科学技術研究センター交流研究員。聖カタリナ大学非常勤講師。

原田 美藤（愛媛大学　アカデミックアドバイザー（障がい学生支援担当））
愛媛大学大学院法文学研究科修士課程修了。NPO モコクラブ代表。愛媛大学，松山大学にて障がい者支援について教鞭を執る。

■プログラム概要

近年，心身に障がいのある方の大学への入学が増加しています。それに伴い，健常学生とは違う様々な修学上の支援・配慮が，大学の責任として認識されるようになってきました。しかし，一部の先進的な支援事例を除いては，高等教育機関での障がい学生の修学支援・配慮は，その構成員の理解と実践の上に成り立っているとはまだまだ言い難い状況です。そこで本プログラムでは，先進的な事例をいきなり学ぶのではなくて，障がいとは何かを学び，障がい学生が高等教育機関で学ぶ際にどのような苦労があるのかを実習を通じて体験します。具体的には，障がい理解の入門講義（担当：太田）の後，視覚障がい（担当：村上・高橋）と聴覚障がい（担当：太田・原田）の体験実習を行います。このプログラムは，高等教育機関の構成員 1 人ひとりが障がいを理解し，意識のレベルでのバリアフリーを実現することを目的とした入門プログラムです。特に，専門的な知識や技術は必要としません。多くの方の参加をお待ちしています。

■本プログラムの到達目標

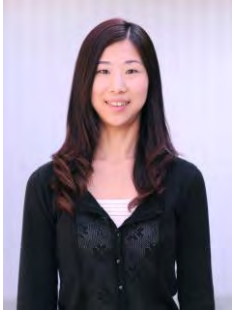
1．近年の障がい学生支援の動向について説明できる。
2．愛媛大学の障がい学生支援について具体的に説明できる。
3．障がい体験を通して，大学生活で困難なことの例を挙げることができる。
4．具体的な支援を実践することができる。

FD　8月25日（木）13：00～15：00／アクティブ・ラーニングスペース2

何が学生の学びを促進するのか？
－授業コンサルテーションの事例から－

■講師

城間　祥子
（愛媛大学　教育・学生支援機構　教育企画室　助教）
筑波大学第二学群人間学類卒業。
同大学院人間総合科学研究科心理学専攻単位取得退学。
2007年度から愛媛大学に勤務。
修士（心理学）。専門は教育心理学。



大竹　奈津子
（愛媛大学　教育・学生支援機構　教育企画室　特任助教）

愛媛大学農学部生物資源学科卒業。
愛媛大学連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程満期退学。
専門は水文学。

■プログラム概要

愛媛大学の授業コンサルテーションでは、授業の中間期（第5～6回頃）に、教育企画室のコンサルタントが授業に入り、直接、学生からコメントを聞き出します。授業方法に関するコメントを多く得ることができ、コンサルタントは、学生と教員の間に入って、振り返り作業をお手伝いする役割を担っています。

本プログラムでは、授業コンサルテーションの手順や効果等の詳細について説明を行ったあと、何が学生の学びを促進するのかについて考えていきます。学びを促進する要因については、実際の学生のコメントを利用したグループワークや、事例紹介を行いながら進めていきます。授業コンサルテーションの手法や「学生は授業を受けながら何を感じているのか」について興味のある方は是非受講ください。

■本プログラムの到達目標

1. 授業コンサルテーションの手順について説明することができる。
2. 授業コンサルテーションが教員と学生に与える効果について述べることができる。
3. 学生の学びを促進する要因について述べることができる。

FD・SD共通　8月25日（木）13：30～15：00／M24教室

トップリーダーセミナー
ーわが国大学の致命的欠陥―

■講師

諸星　裕
（桜美林大学大学院教授）

桜美林大学大学院教授・ミネソタ州立大学特別功労教授。1969 年に ICU を卒業後渡米し、71 年私立ブリガムヤング大学大学院修士課程修了。76 年州立ユタ大学大学院博士課程を修了（学術博士）。米ミネソタ州の州立大で教授、学部長代行、秋田校学長を経て、98 年に桜美林大学に教学担当副学長として招聘され、現在に至る。米国で大学評価委員をした経験も持つ。

■プログラム概要

講演者諸星裕氏は、アメリカの大学で教育と大学経営の双方でキャリアを積んだ異色の大学人であり、帰国後はその経歴から、さまざまな大学の新規立ち上げや学部改編に関わる大学教育改革の第一人者です。最近は、赤字や経営破たんの大学に対し、コンサルテーションも行っておられます。今回のセミナーでは、大学、短期大学及び高等専門学校のトップリーダーを対象に、“わが国大学の致命的欠陥”と題し、以下のキーワードでご講演いただきます。

【キーワード】

- ●ミッションの欠如
- ●学部教授会の職責とその弊害
- ●教員の Accountability
- ●職員の専門性の欠如
- ●学外との距離、閉鎖性
- ●システムの欠如

FD　8月25日（木）13：00～15：00／M32教室

アクティブ・ラーニングで授業改善
―「情報処理」を事例に―

■講師

立川　明
（高知大学　総合教育センター　准教授）

高知大学理学部化学科卒業。九州大学大学院分子工学専攻前期博士課程修了。高知大学理学部助手。高知大学大学教育創造センター（現総合教育センター大学教育創造部門）准教授。

■プログラム概要

受講者にとって PC の使い方を逐一一方的に教わる授業は退屈です。多くの操作は授業で一回しかやらないので，時間とともに忘れてしまいます。本プログラムでは，教員が教える授業から、学生同士が学びあい，教えあう授業（アクティブ・ラーニング）に変えることによって授業効果を高める方法を，実際に体験しながら学びます。***＊ノートPCをご持参ください***。

・グループワーク導入の効果（高知大学の実例紹介）
・授業の実際：グループの作り方
・授業の実際：パワーポイントの使い方（ワークショップ）
・授業の実際：座学をアクティブにする方法（TBL：チーム基盤学習）
・授業の実際：授業時間外の学習（PBL（Problem-Based Learning）と学習記録）
・ワークショップ：PBL の課題を作ろう！

■本プログラムの到達目標

1．授業にグループワークを導入する効果を説明できる。
2．授業にグループワークを導入する仕方を説明できる。
3．グループワークの課題が作成できる。

SD　8月25日（木）13：00～15：00／M33教室

部下の成長を促すためのメンタリングのコツ

■講師

久保　研二
（広島大学　教育学研究科　助手）

広島大学教育学部第一類卒業。同大学院教育学研究科博士課程前期学習科学専攻学習開発専修修了。同博士課程後期学習開発専攻中退。愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室特任助教を経て現職。専門は教師教育学。

■プログラム概要

現在，人材育成の手法としてメンタリングが注目を浴びてきています。しかし，従来までの人材育成手法とメンタリングとの違いや，メンタリングとコーチングなどとの相違点が，よく分からないという声もよく聞かれてきます。

そこで，本プログラムでは，メンタリングが注目されてきた背景やコーチングなどとの違いも含め，メンタリングについて分かりやすく説明していきます。また，効果的なメンタリングを行っていくためのコツについても解説を行い，それらをもとにしてグループワークで実際のメンタリング体験も行っていただきます。参加者が，自らの職場や私生活において，実際にメンタリングを行っていくことが可能となるヒントを持ち帰っていただきます。

■本プログラムの到達目標

1．メンター，メンタリングについて説明することができる。
2．効果的なメンタリングを行うコツを挙げることができる。

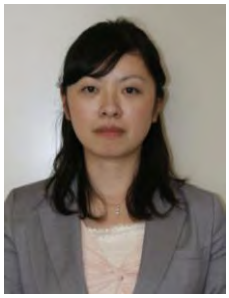
FD・SD共通　8月25日（木）13：00～15：00／校友会館2Fサロン

学生とつくるスキルアップ研修プログラム

■講師

西本　佳代
（香川大学　教育・学生支援機構　助教）

広島大学教育学部第五類教育学系コース、同大学院教育学研究科教育学専攻博士課程前期、同研究科教育人間科学専攻博士課程後期を経て、平成 20 年 10 月より現職。



藤本　佳奈
（香川大学　教育・学生支援機構　助教）

広島大学教育学部第五類教育学系コース、同大学院教育学研究科教育学専攻博士課程前期、同研究科教育人間科学専攻博士課程後期を経て、平成22年12月より現職。

■プログラム概要

2000 年の文部省高等教育局報告「大学における学生生活の充実方策について」以降、「教員中心の大学」から「学生中心の大学」へという大学づくりの方針転換は、多くの大学の共有するところとなりました。しかし、「学生中心の大学」づくりを行うことは決して容易ではありません。

このプログラムでは、大学改善に取り組む学生との協働を通して、「学生中心の大学」づくりについて考えます。今年度は特に、学生が大学時代にどのような力を身につけたいと考え、大学に対してどのような研修プログラムづくりを望んでいるのか知ることを通して、大学改善に参加する学生の実態を理解します。また、実際に学生が企画した研修プログラム案に対して教職員がアドバイスする中で、学生の意欲を引き出す方策を探ります。「学生中心の大学」づくりを自大学で実践される際の一助になれればと考えます。

＊本プログラムは、SPOD 加盟校の学生が四国の大学を元気にする方策について考える「四国キャンパス元気プロジェクト」の一環としても位置付けられております。そのため、教職員ばかりでなく、学生にも配慮した講座内容となっておりますことをあらかじめご承知いただければ幸いです。

■本プログラムの到達目標

1. 大学改善に参加する学生の実態を理解することができる。
2. 大学改善に対する学生の意欲を引き出す方策について自分の考えをまとめることができる。

FD・SD共通　8月25日（木）15：30～17：30／南加記念ホール

シンポジウム 「高等教育機関におけるマネジメント －危機管理と情報開示の意義－」

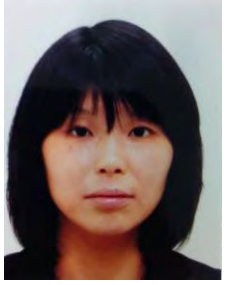
■講師

諸星　裕
（桜美林大学大学院教授）

桜美林大学大学院教授・ミネソタ州立大学特別功労教授。1969 年に ICU を卒業後渡米し、71 年私立ブリガムヤング大学大学院修士課程修了。76 年州立ユタ大学大学院博士課程を修了（学術博士）。米ミネソタ州の州立大で教授、学部長代行、秋田校学長を経て、98 年に桜美林大学に教学担当副学長として招聘され、現在に至る。米国で大学評価委員をした経験も持つ。

池田　輝政
（名城大学教授）

九州大学大学院教育学研究科博士課程満期退学。同大学助手、大学入試センター研究開発部助手、助教授、教授、放送教育開発センター研究開発部教授、メディア教育開発センター研究開発部教授、名古屋大学高等教育研究センター教授、名城大学大学院研究科長、大学教育開発センター長、副学長・理事を経て、現在は人間学部教授及び大学学校づくり研究科教授。専門は高等教育経営、教育行政。国立大学協会大学評価専門委員ほかを歴任。



石橋　晶
（文部科学省高等教育局大学振興課　課長補佐）

東京大学法学部卒。2000 年に文部省（現文部科学省）に入省。文化庁初等中等教育局初等中等教育企画課専門官、科学技術・学術政策局基盤政策課専門官、高等局大学振興課大学改革推進室大学院振興専門官を経て、現在に至る。

■プログラム概要

高等教育機関を取り巻く環境の変化や東日本大震災により、高等教育機関は大きなダメージを受け、それとともに学長・理事長をはじめとしたリーダーのマネジメント能力が強く問われている。また、「象牙の塔」と称されてきた、大学をはじめとした高等教育機関も時代の波に押し流され、学校教育法施行規則等の一部改正に伴い、本年度より教育情報の公表も義務化された。すなわち、「開かれた大学（学校）」として社会との関わりを積極的に持つとともに、学内の情報を一般に公開することが強く求められる時代となったと言える。

本シンポジウムでは、「高等教育機関におけるマネジメント－危機管理と情報開示の意義－」と題し、大学経営者（学長・校長・理事等）やミドルリーダー（学部長・部課長等）に求められるマネジメント能力を危機管理や情報公開の側面から諸星裕氏、石橋晶氏にご講演いただき、コメンテーター・コーディネーターを池田輝政氏にお願いする。

後半部分では、テーマに沿ったフロアからの質疑応答を受け、危機管理や情報公開について、参加者個々が新たな視点を持つことができるようなプログラムとなっている。

FD・SD共通　8月26日（金）10：00～12：00／M23教室他

ラウンド・テーブル

■プログラム概要

SPODフォーラムでは，これまでテーマ別昼食会を開催し，フォーラムにご参加いただいた教職員同志の交流を図って参りました。この昼食会は，参加者の皆さまより、気軽に情報交換ができるという点で、大変好評ですが，時間が足りないという声もいただいておりました。そこで今回は，ラウンド・テーブルと題し，テーマ別に 5 会場ご用意します。各会場では，事前に参加者の皆さまから寄せられた話し合いたいトピックをもとに，少人数でのグループディスカッションを通した情報交換を行います。所属機関を越えたネットワークづくりの場としてご活用ください。

■テーマ1：教員の能力開発

ファシリテーター：佐藤浩章　愛媛大学教育・学生支援機構　教育企画室　副室長・准教授

（トピック例）

・小規模校でどのように FD を進めていくか
・FD の実施組織をどのように立ち上げていくか
・意欲の低い教員に参加してもらうにはどうしたらよいか
・多くの教員を集めるためにはどうしたらよいか

■テーマ2：学生支援

ファシリテーター：野本ひさ　愛媛大学教育・学生支援機構　学生支援センター　副センター長・教授

（トピック例）

・相談に来ない学生をどうすればいいか
・学生に苦手な印象をもってしまう時
・最近の学生相談の傾向
・保護者への対応
・どこまでが「学生支援」か

■テーマ3：授業改善

ファシリテーター：　山田剛史　愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室　准教授

（トピック例）

・学生の受講態度を改善するにはどうしたらよいか
・学生を授業に集中させるにはどうしたらよいか
・授業のシナリオをどう描けばよいか
・学生との効果的なやり取りを行うにはどうしたらよいか

■テーマ4：職員の能力開発

ファシリテーター：秦敬治　愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室　副室長・准教授

（トピック例）

・人材育成ビジョンの必要性とは

・「体系的・持続的・段階的」な SD プログラムを開発し，実践するにはどうしたらよいか

・スタッフ・ポートフォリオ（職業業績記録）について

・職員キャリアアップサポートとは

・小規模校での SD について

■テーマ5：教職協働

ファシリテーター：渡邊正則　愛媛大学　教育学生支援部　教育企画課　課長

（トピック例）

・仕事上の接点から考える協働のあり方とは

・「共に考えること」と「共に支えあうこと」の違いとは

・情報共有という場合の情報とは何か

・信頼関係を生むかかわり方

FD　8月26日（金）13：00～15：00／アクティブ・ラーニングスペース2

高専における学生サポートをどうするか？
ークラス経営・保護者対応・情報共有ー

■講師

坪井　泰士
（阿南高専　一般教科　教授）

広島大学教育学部卒業。高等学校を経て，1989 年度から阿南工業高等専門学校に勤務。学生による授業評価，ピアレビュー等の授業改善方法の導入に携わるとともに，これらを用いた統合的授業改善システム（授業コンサルティング）を構築。2005 年度からは，校長補佐を兼任。

■プログラム概要

成長途上の学生へのサポートでは，人間関係の悩み，保護者との連携，教員間の協同などについて知識と対応のスキルを求められます。学生それぞれに異なる悩みを受けとめ，その成長を支えることは容易ではありません。保護者の価値観は多様で，学校の教育指針と一致しないことも少なくありません。一方，教員間で教育情報を共有し協同することも難しい問題です。それでも，学生はサポートを必要としています。

高専の教育現場で起きている事例について，どう対応すれば適切に学生をサポートできるのか，グループワークによるケーススタディを中心に検討し，広範な学生サポート力の獲得に資するようプログラムを展開します。地域性や伝統，指導指針等により，高専間で異なる部分もあるでしょう。しかし，中学卒業後の急速に精神的に発達する5年間，学生の教育に携わる高専教員として，問題意識を共有し助言しあえるようなネットワークを構築できればと思っています。

■本プログラムの到達目標

1．サポートを必要としている学生の存在を認識する。
2．学生サポートが必要な事例について，シチュエーション毎にあげることができる。
3．同事例への具体的で効果的であると思われる対応について，説明することができる。
4．学校としての学生サポートのあり方について，意見を述べることができる。
5．学生サポートについて助言しあえるネットワークをつくる。

FD　8月26日（金）13：00～15：00／M23教室

大人数講義法の基本

■講師

小林　直人
（愛媛大学　教育・学生支援機構　教育企画室長、
　愛媛大学　医学部　総合医学教育センター長・教授）

昭和 63 年3月東京大学医学部医学科卒、博士（医学）。平成 21 年度より愛媛大学教育・学生支援機構副機構長と教育企画室長を兼任。教育担当理事（教育・学生支援機構長）のもと、大学全体のFDをミクロ・レベルからマクロ・レベルまで幅広く担当。

■プログラム概要

「よい」講義とはここでは、聞き手の学生にとって分かりやすく、知的な緊張感があり、さらに学生が参加する（した気にさせる）講義、ということにします。学生とコミュニケーションを取る方法、講義に参加させる方法や授業効果を高める方法など、大人数の学生を聴衆とした「よい」講義をするために気をつけておかなければならない様々な授業スキルを、実例や実習を通して習得することができます。

また参加体験型授業/アクティブ・ラーニング型授業の一例として、受講者に実際にグループワークを体験していただきます。講義を受け持つようになって間もない教員の方はもちろん、自分の講義を振り返りたいと思われている方、また職員の方々も是非受講してください。

■本プログラムの到達目標

1. 学生にとってよい授業とはどのようなものかを具体的に説明できる。
2. 様々な授業スキルを実際の体験を通して習得し、自分の授業に生かすことができる。

SD　8月26日（金）13：00～17：30／M32教室

大学職員のための企画力養成講座①②

■講師

秦　敬治
（愛媛大学　教育・学生支援機構教育企画室　副室長・准教授）

西南学院大学商学部経営学科卒業。九州大学大学院人間環境学研究科発達・社会システム専攻修士課程修了。同専攻博士課程単位修得満期退学（教育学博士）。学校法人西南学院本部・大学経理課係長（主査）、愛媛大学経営情報分析室助教授を経て現職。

■プログラム概要

大学職員に必要な能力として「問題発見・解決能力」がよく取り上げられています。このプログラムは、大学改革、業務改善を行っていく上での、「問題発見・解決能力」と「企画提案力」の手法を学ぶものです。研修のための研修ではなく、このプログラムで身につけた手法や企画書を実際に大学に持ち帰り、上司や大学に提案できるよう、実践に即したスタイルで行います。大学や今の業務に疑問や改善点を持たれている職員の方はもちろん、どうやって見つけたらよいか、提案したら良いのか分からない職員の方も遠慮なくご参加ください。

■本プログラムの到達目標

1. 問題発見手法を実践できる
2. 多くの情報をグループ化することができる
3. 問題解決に向けた提案ができる
4. 企画を効果的にプレゼンテーションできる

FD　8月26日（金）13：00～15：00／M33教室

ルーブリック評価入門～考える、つくる、活用する～

■講師

俣野 秀典
（高知大学 総合教育センター 大学教育創造部門 講師）

北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科修了。地域科学研究会・高等教育情報センター研究員を経て、2009 年より現職。成績評価をはじめとした教育評価を中心に、FD を含めた“Educational Development”に取り組む。2010 年からは教育プログラム開発部会長として、課題探求型授業の開発・支援に携わる。

■プログラム概要

成績評価について、多様な評価基準を設定することが求められております。ある大学の『シラバス入力手順説明書』では、“具体的な評価基準はルーブリック評価シートを事前に配布し、配点 30 点とする”との例が示されたりしており、「ルーブリックって何？？」と戸惑われた教員の方も多いと聞いております。

そこで本プログラムは、成績評価の目的・意義から出発して、高等教育において近年注目が集まっているルーブリック評価についての基本的な考え方を理解することを目的として実施されます。

※ルーブリックとは、「目標に準拠した評価」のための「基準」づくりの方法論であり、評価指標として活用されます。本プログラムでは、学生が何を学習するのかを示す評価規準と学生が学習到達しているレベルを示す具体的な評価基準を示すマトリクスからなる分析的ルーブリックを主に取り上げます。

■本プログラムの到達目標

1. 目標に準拠した評価を心がける。
2. ルーブリック評価の意義を説明できる。
3. ルーブリックを授業で活用するための準備ができる。

FD　8月26日（金）15：30～17：30／アクティブ・ラーニングスペース2

授業の双方向性を高めるクリッカー入門

■講師

山内　一祥
（佐賀大学　高等教育開発センター　特任助教）

岡山理科大学理学部化学科卒業。愛媛大学大学院教育学研究科修了。愛媛大学　教育・学生支援機構教育企画室特任助教を経て、現職。

■プログラム概要

クリッカーとは，授業用のリモコンのことで，アンケートなどに対する答えを盤面のスイッチを押すことで，即座に集計しスクリーンに投影することのできるシステムのことです。（本プログラムでは，KEEPAD 社製を使用。ソフトは Turning Point2008。）

講義形式の大人数授業では，教員から受講生への一方通行の伝達になりがちです。クリッカーを使用することで，受講生との双方性を高めることができるとともに，受講生の集中力を維持したり理解度を確認したりすることが可能になります。また，集計結果を保存することもでき，データを活用することも可能です。

本プログラムでは，クリッカーの使い方について，インストール，スライドの作成という準備段階から実際の授業での使用方法までをわかりやすく説明します。もちろん，参加者には実際にクリッカーを使っていただきます。

■本プログラムの到達目標

1．クリッカーの使い方を説明することができる。
2．クリッカーを用いた授業や学会発表の方法に関するアイデアを発想できる。